

第16回 2012年12月3日(月)

「メディアウオッチング」の会が推す2012年“心に残った番組”“影響の大きかった番組”

- テーマ ① 民放OB・OGが推す「2012・ベストテレビ・ラジオ」  
② 「テレビ60年」を考える～現役放送人に提言～  
③ 総選挙と放送メディア、そしてポピュリズム

司会 今年最後の「メディアウオッチング」の例会を始めます。16回目になります。  
今年一年のテレビ・ラジオ番組を振り返り、来年60歳の誕生を迎えるテレビそのものについて展望するということでご案内しています。

一つ目のテーマは、民放OB・OGが推す「2012・ベストテレビ・ラジオ」“心に残った番組”“影響力の大きかった番組”“テーマが大きくて明確、そして密度の濃い作品”“放送の特性を生かした番組”など今年のベスト番組を、「メディアウオッチング」の会として推薦します。

もう一つの課題は、『テレビ60年』を考える～現役放送人に提言（NHKが1953年2月1日、NTVが8月28日にテレビ放送を開始）

時間があれば、衆院選挙の投開票が12月16日に迫っていますので「テレビ・ラジオメディアと最近話題のポピュリズムについて」も考えてみたいと思います。

（冒頭、民放OB・OGの「必ず見る番組」アンケート調査総括とホームページの掲載状況について報告があったが、この部分は文末に記す）。

<放送メディアとネットメディア>

司会 ところで、“新聞、テレビなど既存のメディアと新しいネットメディア”の関係性をテーマにしたシンポジウムが10月中旬、二か所で開かれ参加した（{注}参照）。こういった会場でよく見聞きするのが、インターネット、SNS（ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス）、フェイスブック、ツイッターといった言葉だが、我々の会でも専門用語で難しいからといって避けて通れないキーワードになってきた。SNS時代をテーマにした関西プレスクラブ主催のフォーラムでは専門用語が飛び交い、これはかなりちんぷんかんぷんであった。高橋信三記念基金のシンポジウムでは先に関西プレスクラブのフォーラムに出ていたので、かなり理解できた。このシンポジウムでパネリストとして参加していたニワンゴ（ニコニコ動画）の杉本社長がこんな発言をしていた。

「インターネットの中にはマスメディアは存在しない」

そのあたりが今のテレビとSNS、インターネットとの間にちょっと違いがあり、棲み分けされつつあるのかなという感じがする。

{注}①「SNS時代のメディア戦略

～ツイッターとジャーナリズム～

(関西プレスクラブ主催、10月15日)

パネリスト

鈴木謙介 関西学院大準教授

津田大介 関大特任教授

ネットジャーナリスト

前田史郎 朝日新聞論説委員

大塚展生 ABCゼネラルプロデューサー

②「テレビの未来と可能性～関西からの発言」

(高橋信三記念放送文化振興基金主催、

10月20日)

パネリスト

MBS、ABC、KTV、YTVの現役放送人

杉本誠司 ニワンゴ社長(ニコニコ動画)

黒田 勇 関大教授

音 好宏 上智大教授

関西プレスクラブのフォーラムでコーディネーターを務められたABCの大塚氏はこの分野ではたいへん詳しい方なので一度その方をお招きし、分かりやすい話をしていただいてはどうか。

出席者 この間、MBSの長井展光氏(経営戦略室、地上デジタル推進化のセクションにいた)と話をしていたら、(この分野に通じている彼でさえ)今話題になっているニコニコ動画の杉本社長の話が全く分からなかったと言っていた。彼に解説を頼めばいろいろ話をしてくれるだろう。

出席者 ニコニコ動画の社長は、ネットにかなり予備知識のある人を対象に話をしていた。だからシンポジウムに参加していた一般の人がどれだけ理解していたか疑問である。聴衆の知識レベルを知らない。パネリストや会場の前にいた学生は分かっていたようだが、会場の一般参加者には難しかった。

司会 シンポジウムの中でパネリストの一人関大の黒田 勇教授が「テレビというのは、そういったものを分かりやすく伝える(説明する)のがテレビ本来の役割である」と言っていた。テレビはそこのところを今忘れてしまっていると思った。

出席者 (難しい事柄を)分かりやすく説明する機能、これがテレビの仕事だろう。

出席者 SNS の説明を含めてネット関連の話はぜひ聞きたい。私は朝と夜、インターネットにアクセスしているが、いちばん多いのは略語、その略語の意味を知るのに苦労する。コンピューター関係の話をする人は略語とか専門用語をよく使う。だから、講演を聴いたりしても理解しにくいことがある。

出席者 次回の会合には、SNS などに詳しく、尚且つ分かりやすく解説できるゲストを頼みましょう。

出席者 先日総選挙を前に、ニコニコ動画を使い生放送の形で各政党の党首が討論会を行った。これは画期的なことである。僕が知りたいのはデータである。この討論会にどのくらいのリーチ（接触）があって、反応はどうだったのかなどの分析データを知りたいのである。そのデータを集めて、既存のメディアテレビとの比較、分析をしないとネットメディアの影響力は見えてこない。党首討論が生放送されている時間帯のニコニコ動画への接触状況は新聞で簡単に紹介されていたが、もっと詳細を知りたい。1996 年ぐらいから携帯電話が普及しだしたが、この 10 年間でテレビ、新聞に対するアクセスがどんどん変わってきている。これはデータで分かる。そういうデータを見ながら、1996 年ころから、2000 年、2010 年にかけて、つまり携帯電話が普及し、ニコニコ動画が進出してきた時期にテレビへのアクセスがどのように変化してきたか、データで知りたい。ビデオリサーチがデータを持っているのではないか。

出席者 ビデオリサーチがニコニコ動画の分析をしていないか。こういうことは本来サービスでやるべきである。電通はどうか。

司会 私がショッキングだったのは高橋信三記念基金のシンポジウムの冒頭、会場のスクリーンに高橋信三さんの新年のあいさつがビデオテープで流れた。昭和 53 年だったと聞いているが、高橋さんはその中でいつも騒がしい年末年始の番組を見て「これからは中高年向きの番組を作らなければならない」と訴えている。この当時すでに鋭い問題提起をしていたのに、未だにその方向に向かっていないことにショックを受けた。

<ことしの“心に残った番組”“影響力のあった番組”>

さて本題に戻って、2012 年に放送されたテレビ・ラジオ番組の中で、“心に残った番組”“影響力の大きかった番組”“テーマが大きくて明確、そして密度の濃い番組”“放送の特性を生かしたテレビ・ラジオ番組”をそれぞれの方から推薦してい

ただきたい。そして集計できるのであれば、秋に実施したアンケート調査と同じようにホームページに掲載したいと思っている。

「メディアウォッチング」の会では2012年に放送されたテレビ・ラジオ番組の中から「ベストテレビ・ラジオ番組」を下記のような基準で選び推薦する。“ベスト”には“最も有益な”番組も含まれる。推薦理由などは後述する。

- ① “視聴者がかみしめたり、考えたりするような心に残った番組”
- ② “影響力の大きかった番組”
- ③ “テーマが大きくて明確、そして密度の濃い番組”
- ④ “放送の特性を生かしたテレビ、ラジオ番組”

特に放送メディアとして影響力のあった番組、テレビ、ラジオの特性を生かした番組などを重視し、従来の作品コンクールなどの選考基準とは一味違った方法で、次のような番組をリストアップした。

### 2012年の「ベストテレビ・ラジオ番組」

- \* 「イナサがまた吹く日～風寄せる集落に生きる」(NHK 仙台放送局)  
津波で生活の基盤を失ってしまった人々の暮らしを長期取材で追う。  
それに地震の7年前に記録していた平和な地域の映像が重なり合う。  
仙台市脇浜地区を舞台につづる密度の濃い作品。
- \* 「白い煙が上がった原発の映像～天気カメラがとらえた爆発の瞬間(仮題)」  
(福島中央テレビ)  
海外の放送局やインターネットを巻き込んだスクープ映像の顛末が面白い。
- \* 「未解決事件」(「オウム真理教」3回、「グリコ森永事件」2回)(NHK)  
特に「オウム真理教」をテーマに3回にわたって放送された特集は影響力のある番組となった。放送終了後、「未解決事件」は解決へ。
- \* 「新日本風土記」(NHKBS)  
日本の民族、日本の風土の原点を呼び覚まされるような良質な番組。
- \* 「小さな村の物語～イタリア」(BS 日テレ)

経済破綻寸前のイタリアでこんなに心豊かに過ごしている家族がいる。そして人生を語り合っている。いつも見ている豊かさとは何かを考えさせられる。

- \* 「関口知宏の中国鉄道大紀行～最長片道ルート 36000 ㎞をゆく」(NHKBS)  
チベットから始まり、中国の鉄道のあるところすべてを 10 分ずつ紹介していく。3 年間続いているこの番組を通して中国各地の人々の生活のイメージができた。こんな面白い番組はない。
- \* 「ケンミンショー」(YTV)  
北海道から沖縄まで言語、食生活、習慣といった観点から、その違いを際立たせて表現し構成しているところが巧み。日本という国の多様性を改めて感じさせる。
- \* 「COOL JAPAN～発掘かっこいいニッポン」(NHKBS)  
外国人が日本文化を発掘するという番組。鴻上尚史がメインの司会。異文化に触れる外国人の取材、報告がやはりユニークで楽しい。
- \* 「ワールド WAVE」(NHKBS )  
欧米、アジア、中東など世界のニュースを毎日伝えている。テレビの同時性という特性を生かした民放にはない有益な番組。60 年前のテレビ開局当時、世界各国のニュースはフィルムで記録し航空便で運ばれていたのが日本に届くまでに数日を要した。衛星の出現でテレビは他のメディアよりも高速の情報手段を得ることになった。
- \* 「たね蒔きジャーナル」(MBS ラジオ)  
東日本大震災直後、2011 年 3 月 13 日から原発問題を積極的に取り上げる。原子力推進反対の立場をとる京大原子炉研究所の小出裕章助教をゲストに呼び、市民の目線で分かりやすく原発問題を解説。若い女性の間、特に子供を持つ女性の間で支持され、今や宝石のような番組とも言われるようになった。ところが 2012 年 9 月、突然放送が打ち切りになった。  
(「たね蒔きジャーナル」は 2009 年 10 月スタート。平日午後 9～10 時放送の報道番組)

このほか、推薦された番組。

- \* 「死刑弁護人」(東海テレビ)
- \* 「誘惑の原発マネー～佐賀・玄海町 崩れたシナリオ」(九州朝日放送)

- \* 「チャベス政権（ベネズエラ）クーデターの裏側」（NHK,BBC 制作）
- \* 「世界のはての日本人～ここが私の理想郷」（TBS）
- \* 「チェルノブイリ原発事故 汚染地帯からの報告  
～ベラルーシの苦悩」（NHK ETV 特集）
- \* 「追跡 東北大震災 復興予算 19 兆円」（NHK）
- \* 『映像 12』重信房子からの手紙～ニッポン赤軍元リーダー  
40 年目の素顔」（MBS）
- \* 「サイエンス ZERO」（NHK E テレ）
- \* 「原田正純 水俣病への遺産」（NHK ETV 特集）、
- \* 「BS 日本 こころのうた」（BS 日テレ）

（以下、討論の様様）

出席者 私はニュースを見たり、たまたま情報番組を見たりするくらいで、どちらかといえばテレビはあまりモニターしていない。ただアンケート調査（「必ず見る番組」「好きな番組」）の一覧を見て、ちょっと意外に感じたのは、例えば NHK の夜 7 時のニュースのあと「クローズアップ現代」（キャスター国谷裕子）なんかはもつと見ている人が多いのではないかという気がしたが、アンケート結果には番組名があがっていなかった。

出席者 見ていないのかもしれない。

出席者 ちょっと時間が合わないのかもしれない。アンケート調査に答えた人の生活習慣に合わないのかもしれない。

出席者 テーマによるが私は大体見ている。

出席者 前回の会でも話題にあがったが、「クローズアップ現代」（11 月初旬放送か）で使用済み核燃料の問題を取り上げていた。使用済み核燃料の処理はできているのだが、そのときの副産物である廃棄物が強い放射能を出し危険だという。その廃棄物に近づけば 20 秒間で死ぬほどの強い放射能が出ているらしい。その危険物をどうしているかといえば、金属の容器に入れ地下深く埋めて貯蔵している。容器そのものの耐用年数は 1000 年くらいである。1000 年経ったときにその（高レベル放射能の）廃棄物をどのようにして処理するのか、番組では触れていなかった。そういう難しい話になると専門家を交えて確かなデータに基づいて分析していく番組にしないといけない。例えば原子炉を廃止するという場合でもそれなりの根拠を提示していくような制作姿勢が必要だと思う。核燃料の問題だけでなく、い

ろいろなことで教えられることの多い番組である。

司会 今の話は、テレビメディアの影響力を考えたときに「クローズアップ現代」はタイムリーでいいテーマを取り上げているという問題提起だと思う。  
国谷キャスターのファンも多いと聞くが、国谷キャスター評は。

出席者 国谷さんは立派だと思うが、あの角の無さが気になる。編集者がダメにしている。国谷さんはフリーだからもっと自分を出して、時には興奮して伝えることがあってもいいのではないか。NHKの番組だなと感じる。

出席者 娯楽番組でなく、しっかりした情報を出す番組しか見なくなった。いかに面白おかしく、なるほどよく演出しているなと思うような番組については全然面白くなくこのごろ見なくなった。たまに見るのは韓国ドラマくらい。

司会 情報系の番組で特にお気に入りにはどんな番組？

出席者 ニュースであれワイド番組であれ、本筋の中身、これがニュースだというものにストレートにすっと出してこないといけない。演出だらけのニュースというのはみんな飽きられる。  
テレビの番組を全体見ている、今までやってきたことを繰り返してやっても、タレントを変えても何の面白みもない、もちろん視聴率もよくなる。私も編成の仕事を経験したが、このタレントで面白い番組を作れといっても作れるはずがない。今視聴者が求めているのは、加工していない本当のニュースであり、情報である。それを忘れていた。10月に高橋信三記念基金のシンポジウムが開かれ、「放送の現在と未来」についてパネリストの方がいろいろ語られたが、シンポジウムの途中で流れた高橋さんのメッセージ（VTR）の中にテーマの答えがすでに出ていた。

司会 シンポジウムの際にコーディネーターの音教授（上智大学）が「視聴者の視線というものがテレビ局で分からなくなっているようだ」と問題提起されたが、けだし名言だと思った。

出席者 営業が売った（持ち込み番組）を放送していても誰も見ない。今は社長から全部そうってきている。今この時期にこの番組（企画）を出さなくてはならないといった番組は何一つない。

司会 (今日の会の議題に) 現場への提言とあるが、提言というのはそういうことを言うのかもしれない。

出席者 TBS 系列で放送している「報道特集」(土曜日、夕方 5:30~) が頑張っている。社会的な問題を取り上げ、それこそ角度(主張)のある番組作りをしている。

司会 家にいるとき、テレビを見ていますか。

出席者 見ないで評論するのはよくないが、相撲とか、野球くらいでそれ以外は見ない。見てもまた嘘をやっているという風に思ってしまう。  
スポーツ番組の中でも例えば球技というのは球(たま)を追って実況中継しないといけなのに、誰がどうしてとか、そんなことばかり言っている。夏のロンドンオリンピックの中継でも競技がどうなっているのかフォローしていないで、不要な要素が入りすぎて面白くなかった。

司会 以前、女子中高生の放送部で教えていたことがあるが、家にラジオそのものがないという学生がいた。ラジオといえばお父さんのカーラジオで聞くと彼女は言っていた。

<コンクールでは“地震・原発”をテーマにした作品多い>

出席者 私は枕元にラジオを置いているが、聞かない。  
配布された資料の中に「地方の時代」映像祭のコピーが入っているが、私はその映像祭の審査委員長をさせられている。  
ドキュメンタリーは今年たくさん見た。グランプリを受賞したのは NHK 仙台放送局が制作した「イナサがまた吹く日~風寄せる集落に生きる」というドキュメンタリー(90分)。実にいい番組であった。  
仙台市の荒浜地区というところを舞台にし、そこに住む農民と漁師を主人公につづっていく。この地域は東日本大震災のとき、津波で生活の基盤をすっかり失ってしまったところ、たまたま地震の 7 年前、つまり津波が来る前の平和な地域一帯取材した映像も NHK が持っていて、今と 7 年前を重ね合わせながら描いていく。長期取材でたいへん密度の濃い作品であった。  
「地方の時代」映像祭でグランプリというのは、できるだけ NHK じゃなくて、NHK は金も人も、いろいろな意味で恵まれているので、いい番組を作るのは当たり前だから、民放の作品から選ぶということで審査をやっているのだが、残念ながら今年の映像祭でも NHK がグランプリを受賞することになった。  
昨年今年も震災をテーマにした作品がグランプリをとった。やっぱりそれだけ

出来事の重さというのが如何ともしがたい強みになっているということかなと思った。「地方の時代」映像祭には、放送局から 123 作品が寄せられたが、その中の 40 作品が地震と原発をテーマにした番組であった。見ていると力作がいっぱいある。民放の番組はほとんどローカルでしか放送されていないので、大阪ではほとんど見られない。いい番組が作られているのだが、我々の目に見えるところで放送されていないということを感じずにはいられない。だからテレビの可能性はなくなったわけではない。会場であいさつしたときに、「系列に関係なく、優れた作品を放送したらいい。NHK だって民放の番組を放送すればいい」といった趣旨の話をした。会場にいた各社の社長さんがうなずきながら聞いていたが、おそらく実現はしないだろうなと思った。

優秀賞をとった作品で東海テレビ制作「死刑弁護人」、NHK 名古屋放送局制作「模索～原発ができなかった町で」、福島放送制作「闘う先生」はいずれも面白かった。例えば原発をテーマにした番組だけで言えば、NHK 名古屋放送局が作った「模索～原発ができなかった町で」という作品は、熊野灘に面した町で 60 年代に原発をめぐる沸き起こった話を取り上げている。反対派と推進派とがぶつかり合い、結局大震災（2011. 3.11）が来るしばらく前まで対立が続き、ようやく原発を造らないと決めたその直後に震災が来たという内容である。

要するに何をもって豊かさとするか、つまり原発マネーがばらまかれることによっていろいろな施設が出来上がるのだが、それがいいということで原発を造ろうというのと、そうではないというのと対立、何をもって豊かさとするのか、価値観の違いが推進派と反対派との対立を深めていく。それはそれでなかなか面白かった。

選奨になった番組で「誘惑の原発マネー～佐賀・玄海町 崩れたシナリオ」（九州朝日放送）がある。これは価値観が全く逆で原発を推進する。誘致した結果として原発マネーにすっかり侵され、原発マネーなしでは町がやっていけないところまで追いつめられてしまう。玄海原発は今止まっているから、原発マネーが入ってこなくなり、たいへんなことになっているという現状を描いている。

#### <スcoop「水素爆発の瞬間の映像」をめぐって>

それから入賞しなかったが、福島の原発で水素爆発の瞬間を唯一撮った福島中央テレビが制作した作品に注目した。この作品の軸になっている“白い煙のあがる原発”の映像をめぐっては海外の放送局まで巻き込んだ騒動を引き起こしている。福島中央テレビが、(NHK も含めて他局が撮れなかった)“水素爆発の瞬間の映像”をなぜ撮れたかという、他の福島の局は原発に近いところに天気カメラ（無人で遠隔操作）を設置している。福島中央テレビはそこから仲間外れになってしまっていて、原発に近い場所には置けず、はるか原発から離れたところに設置せざるを

得なかった。原発のすぐそばに置いていた各局の天気カメラは津波で使えなくなった。したがって水素爆発が起きたときにはその瞬間が撮れなかったということである。福島中央テレビだけは原発から離れたところに天気カメラがあつて被災しなかったため原発から白い煙のあがっている爆発の瞬間が記録できた。

ところがその映像が何か分からず、何ゆえに煙が上がっているのか分からなかった。火事なのか、水素爆発なのか全然突き止められなかった。

福島中央テレビは、(煙の意味は分からなかったが)映像に映っているところには人もまだいるので、原発から白い煙が上がっているという事実を記録した映像を放送した。ただしキー局の日本テレビにその事実を伝えると、日本テレビは映像が何であるかということが分からないと放送できないとって東京ではすぐ放送せず、その映像が日本テレビの電波に乗るのはずっと後からのことになる。結局は放送するのだが、官邸が原発で白い煙が上がったということを知るのも日本テレビが放送してからである。テレビで初めてその事実を知ることになる。

福島中央テレビの作品はそういった原発で発生した白い煙を記録した映像をめぐる一部始終を描いている。

すごく面白かったのはその水素爆発の映像が外国の放送局に流れ、その爆発の映像に音が付いて放送される。そしてその音の付いた水素爆発の映像が今度は逆輸入され日本ではインターネットに流れることになる。インターネットで音入りの映像を見た人たちは、テレビで見ると音が付いていないのにインターネットでは音が付いている(と騒ぎになる)。これは日本のテレビは音があるのに隠しているんだろう。隠した理由はこうではないか、ああではないかという解説が付いてみんなが受け取る。しかし原発から17キロ離れたところにある天気カメラで撮影された映像なのではじめから音声は録音できないわけである。原発から煙が上がる映像にはもともと音声はないはずなのにそういう噂というか、風聞がインターネットで流れてしまう。そのことについてもその番組では触れていてなかなか面白いなと思った。インターネットというのはいい加減さがある。インターネットを扱う関係者が音声を付けたわけではない。実はドイツの放送局が(効果音として)映像に音を付けたそう。水素爆発の映像には三度爆発したように音声が付けられているのだが、このドイツの放送局が(加工して)付けた三度の爆発音に、今度はアメリカの放送局がさらに(加工して)一回目の爆発は何々である、二回目とは、解説まで付けて放送したと言う。

出席者 音を作ったのか、それはやらせである。

出席者 効果音を入れたわけだ。

出席者 それは問題だ。

出席者 外国の放送局が効果音を付けたので日本のメディアは糾弾もしなかった。

出席者 おかしいね。そういうことは今はじめて知った。知っていれば糾弾しないといけない。

出席者 今聞いたように面白い番組があるのにどうして全国に配給しないのか。ニュース素材では系列間で素材交換し合っている。番組では素材交換ができないのか。僕らABC系列だから、系列が違う福島中央テレビの映像は手に入らないのか。

出席者 ABCも映像祭には身障者のレイプの問題をテーマにした作品を出品していた。お上品さをかなぐり捨てて作っていて勢いのある面白い作品だった。

<地方局の秀作を全国レベルで見られる機会をつくれませんか>

出席者 先ほどの白い煙の上がる原発の作品は日テレ系の番組で見た。しかし他の番組は全国レベルでは放送されていない。

出席者 今紹介された番組などは貴重な映像なので全国に放送すべきだった。

出席者 白い煙の上がる原発の映像はニュースで何回も流れたので知られているが、意味づけされた番組は全国には放送されていない。

出席者 ニュースの価値というものを分かっている人が編集者にいないのではないか。この映像は全国で放送すべき価値があると判断し、系列を超えて放送するよう全国に呼びかける人（編集者）が一人や二人東京にいてもいいのではないか。

出席者 （水素爆発の瞬間を撮った映像の扱いについて）直接的に批判はしていないが、日テレのデスクは判断を誤ったのではないか。

出席者 高橋信三記念基金のシンポジウムでも、パネリストの一人YTVの女性アナウンサーが阪神大震災のとき、全国ニュースで扱ってもいい素材をあげたのに日テレのデスクが見送ったことがあったと話していた。

出席者 阪神大震災のときは、日テレに編集権があったのでYTVの申し入れが通らなかったのだろう。JNN系列ではMBSが編集権を持っていた。

- 司会 YTV と他の社では違ったのではないか。
- YTV から出たパネリストは、現場の経験を踏まえてテレビがかかえる現実について直言していた。さらに画面の美しさについても触れていて、今のテレビ画像は文字があふれ、ワイプによる映像を組み合わせるなど“何でもありすぎる”と（画面構成）に不満を漏らしていた。また事なかれ主義、責任逃れの番組作りが今行われているのではないかと提言していた。
- 出席者 NHK には芸祭、民放祭、「地方の時代」映像祭などでのグランプリ受賞作品を紹介する枠がある。ここで民放の秀作も放送されているが、先ほど話題になった福島中央テレビの“白い煙の上がる原発”などの作品は放送されない(2010年は5月、2011年は6月、2012年は8月にそれぞれ2日間に分けて放送)。
- 出席者 NHK のこの枠でも一部グランプリを受賞した作品しか紹介していないので、全国に眠っている力作はほとんど見られない。
- 出席者 だから民放全体でピューリツァー賞のようなものをつくり “これはすごい、全国で放送すべき映像である” と推薦し、それに賞金でも出すというような方向にもっていかないと全国に眠っている優れた作品をすくい上げることはできないだろう。我々OB・OG からすれば、何もしてきていないので申し訳ないと思っている。
- 司会 地方局が制作した秀作や先ほど話題になったスクープ映像などに多くの視聴者が出会える場をつくる、そして放送に反映されると良い。知恵を出し合って実現できないか。

<BS のチャンネルをもっと有効に開放を>

- 出席者 衛星放送関連の番組についてあげているのが少ないので触れておく。衛星放送で僕がよく見る番組では、世界の最新ニュースを伝える NHK の「ワールド Wave」がある(毎日、レギュラーで世界各地の出来事を伝える番組は民放にはない)。
- 「ワールド Wave」は海外の放送局が制作しているニュース番組を編集して朝と夜に放送しているが(朝 8:00~8:50 の他、夕方と夜に何枠かある)、その中でアメリカの ABC のニュースはアメリカで放送している内容をそのまま衛星で受けて放送している。NHK がピックアップした映像だけを放送している「きょうのニュース」はこれだけありましたというのを知るには、今の形でもいいが、ニュース番組として編集されているものをもっと見たいという気がする。(今放送されているのはアメリカのほか、フランスはフランス 2、ドイツ ZDF、イギリス BBC、スベ

イン TVE, インド NDTV, 韓国 KBS, 中国 CCTV4 それにアルジャジーラ)。  
それから(地方の秀作)ドキュメンタリーが何故見られないかという話は我々も残念に思ってきた問題だが、各系列とも東京のキー局は衛星チャンネルを持っているのでこれを解放しないとイケない。BS(衛星)のチャンネルも今売れるようになって営業が成り立つようになってきたらしいので、もうちょっと公益のためにチャンネルを開放したら各地方局の優秀な作品が吸収されると思う。今は東京の独占状況だ。BS 衛星放送の 5 チャンネルをつくる時には、大阪で 1 チャンネル取るとかいろいろ問題があった。各地域で 1 チャンネル申請し、地上波テレビでできないものを衛星チャンネルで放送できるようにするべきだった。

<日本のドキュメンタリーに注文 もっと多角的な視点を>

もう一つドキュメンタリーについて注文すれば、地元寄り添っているということはいいのだが(「地方の時代」映像祭で賞を取った作品などはよく作っている)、日本においては政治や経済を題材にしたドキュメンタリーは出てこない。日本ではやりにくいのかも知れない。僕は政治、経済をテーマにしたドキュメンタリーは日本においても作らないとイケないと思う。NHK の夜 11 時から深夜にかけて放送されている世界のドキュメンタリーはシリアスなテーマを掲げている。BBC とかドキュメンタリー制作に強いフリーのプロダクションの制作者が頑張っていて強いと思う。諸外国ではそういったプロダクションがよくやっている。橋下大阪市長を取り上げた週刊朝日の特集が腰砕けになったが、あのようなテーマはドキュメンタリーでやればよい。あるいは小沢一郎という人間を題材にドキュメンタリーを作ればよい。その場合、ちょっと(テーマの設定を)幅広くやる必要がある。

司会 日本の放送の中で、ドキュメンタリー概念というものはあるのか?“深刻”“身近”みたいな(イメージ)。

出席者 物事を中心、“一点”を、その場所をじっと見詰める、日本人が作ってきたドキュメンタリーはそういう視点のものが多。もうちょっと視点をたくさん増やして、そこから見えてくるものは何かということはやっていない。これはテレビに限らない。新聞の報道もその傾向がある。(多角的な視点、構造的なテーマに挑戦する)そういうことが足りない。

『選択』という雑誌のトップ記事でロンドン大学名誉教授ドナルド・ドーア氏がインタビューに答えて、日本人がデモをしているのは「原発」だけでいいのか。もっと大きな問題は「貧富」の問題だ。貧富の差が深刻になっているということに対して行動を起こさないとイケない。目に見える原発だけで何をしているのだ

と言っている。僕も同感である。原発の問題でデモをしたほうがいいが、そういう視点が今のドキュメンタリーの視点と同じである。非常にいいし、(一点凝視)そういう視点は必要だが、それだけではないということを、もっと言う人がいたらいいと思う。(残念ながら)あまりいない。

司会 そうなると現場の記者の資質とか、それから方向性とかといったものに関わってくる。そういった視点が日本のメディア(テレビも新聞も)に欠けているのかなという感じがする。

出席者 欠けているという訳ではないが、(物事を多角的、構造的に見る)そういう見方の訓練がちょっと少ない、足りないと思う。

出席者 一点凝視のほうが作りやすい。

出席者 若いころからかなり、ナマなこともやらせてもらったが、最近見ている良い意味で喝采する、悪い意味では“政府 何しとった”という証告したような、そんなすごい表現をしてくれる番組が少なくなった。  
我々の系列の古舘キャスターの場合でも、入社したころはもっと迫力があつた。今はおっちゃんになってしまって全然迫力が無い。ここでへたをして放り出されるよりも、大事にいこうという雰囲気が出てきてしまって、あのむき出しの若々しさがなくなってしまった。

司会 高橋信三記念基金のシンポジウムの最後のほうで、パネリストがいろいろ語っていたが、(番組を作る際)「面白いとか、楽しいというのを捨てなければならない」「狭く、深く掘り下げを考える必要がある」「密度の濃い、しかも単価の高いものを作る必要がある」といった話が出ていた。これらはテレビに対する宿題なのかなと思った。

ところで私は以前、ベネズエラの政情不安を記録したドキュメンタリーをNHKBSで見た。ベネズエラのチャベス大統領が大統領府からアメリカ軍に拉致され連れ去られるという騒動の一部始終を記録したBBC制作のドキュメンタリーであった(「チャベス政権クーデターの裏側」)。ところが連れ去られたあと、国軍が反乱を起こしチャベス側につく、そしてチャベス大統領から電話が入ってきて情勢が変わったみたいだから、米軍ヘリでそちらに帰るといふ。臨時政府をつくっていた反チャベス派の連中がすでに閣僚を決めていたが、その人たちが急にあたふたし出して、そこへチャベスが帰ってきて民衆が押し寄せ、大統領府を取り囲む。BBCはたまたま大統領府にいたのかもしれないが、その臨時政府の動きとか、国民の

動き出す状況など克明に映像で記録していた。これぞドキュメンタリーなのかと思った。

出席者 BBC は昔からそういう映像作品(決定的瞬間を記録)を制作し世界に売ってきた。売れるものを作ってきたということになる。日本にもそういう制作姿勢が求められる。原発をテーマにしたドキュメンタリーは売れるかもしれない。ほかのテーマでも世界に売れるものを作りたいと思う。

出席者 日本は言葉の壁があるのでどうか。

出席者 映像に壁はない。

出席者 やっぱり言葉による説明が入らないと(説得力がない)。

<テレビは“楽しむもの”>

出席者 私は俗人だから、おおよそジャーナリスティックなところがないので無茶苦茶テレビを見ている。もうお笑いから、ようこんなくだらな番組といわれる、皆さんがアレルギー(拒否反応)を示されるものまで、全部引っ括めて見ている。非常に深刻な番組は見るのがいやなときがある。ドキュメンタリーといったものも見るが、所詮テレビは“楽しむもの”というか、割り切ってそういう見方をしている。皆さんはおそらく見ておられないと思うが、このごろいろいろな食品会社のインスタントラーメンでどこが一番おいしいかといったことを調査している番組がある。3万人とかを対象に、アンケート調査をして、どこのラーメンが一番か、また宅配ピザはどこが一番おいしいかといったことを紹介している。考えてみると実にばかばかしい話だが、そういう番組を見ていると、なるほど今はこういう商品が売れているのかなということが分かる。こうして自分が体験できないものは、やっぱりテレビを見て情報を集めることになる。

出席者 それは僕も賛成の部分がある。このごろラーメンも変わってきたということを知った。この間、たまたま見たバラエティー番組で取り上げていたが、昔のチキンラーメン(日清)がもっと進化しているらしい。

出席者 各食品会社が如何に苦労して商品開発し、売ろうとしているか、自分の会社を維持するためどのように努力しているかということがいろいろな番組を見ているとその裏側が見えてくる。そういう意味で無茶苦茶テレビを見ている。だから日曜日朝起きると、まずフジテレビ系の「新報道」があって、途中張本氏

出演の「スポーツに喝！」で知られる TBS 系「サンデーモーニング」で一週間の出来事を見る。張本氏の話には独特の切り口がある。それに対して自分の見方と重ね合わせ、これは納得できる、これは張本氏とは考え方が違うといった具合にテレビを見ながらいろいろ考える。

9時になったら、中身によってはテレビ朝日系の「題名のない音楽会」(1964年8月～)にチャンネルを合わせる。この番組は物心ついたころからずっと見ている。その次に日テレ系で放送している日本人が海外に出ていろいろな職業に挑戦しているルポ「地球便」を見る。靴職人になったり、ガラス職人になったり、またアフリカで商品を開発したりとか、若者が自分なりの世界をつくっている。日本人も捨てたものではないなと思って見ている。夕方5時半からは「笑点『大喜利』」(日テレ系)を楽しむ。要するにありとあらゆる番組を見ている。自分の行動半径というのはたいしたことではないので、テレビを通していろいろな情報に接している。テレビに文句があるのなら見なければいい。テレビというのはそんなものだと思っている。報道のあり方一つとっても新聞社の記者とテレビ局の報道記者とでは相当の格差があるように思う。それから NHK について言えば、同じニュース、番組に取り上げていても NHK が何を言いたいのか見えてこない、実にまどろっこしい。いつも消化不良というか、番組のプロデューサーは何を言いたいのか分かりにくい。要するに、学者の意見を並べて視聴者の皆さん、自分で考えなさいと投げかけているだけで NHK の主義主張が出ていないケースが多い。

ドキュメンタリーの場合は金と時間をかけ、腰を据えてよく追いかけて記録している。特に自然をテーマにした番組は強い。原発などを扱っている番組は丁寧に作っているが、何か物足りなさを感じる(主張が出せないのは公共放送の限界か)。民放は一つのニュースの中で短い間にたくさんものを織り込んでポイントだけを並べてまとめるのがうまい。NHK は何か一つのことをだだだやっていると問題点が伝わってこない。

さて私が推したい番組は日本テレビ系の「ケンミンショー」(木、21～22時)。これは日本という国の多様性というものを改めて感じる番組である。北は北海道から南は沖縄まで言語、食生活、習慣といった観点から、地域の違いを際立たせて表現し構成しているところが巧み。風土記というか、民族学的な視点というか、番組の意図はそこまで大げさには考えていないと思うが、これは(テレビならではの)面白さを引き出した番組である。

司会 私も見ているが、うちの長男は欠かさず見ている番組である。自分の出身県をあれぐらい意識させられて、改めてこういうものがあつたのかと思ひ出させてくれる番組である。関大の黒田先生はこんなことを言っていた。

「テレビは何も考えなくて、受け手はアホでも何でも結構、テレビ局の人がちゃ

んとしてメディアリテラシーをもって作って下さればいい。分かりやすく説明してくれるのが本来のテレビの役割ではないか。ニコニコ動画の杉本社長の話を聞いても分からない。見ている人がごろ寝していても分かるのがテレビではないか。この方もすごくテレビっ子で（テレビっ子らしい発言だなと思った）。

出席者 私は京都に住んでいる。見る、聞く、楽しむものがいっぱいあって、テレビから芸術とか、美術とか、文化とかそういうものは見る余地がない。自分が行動してそういうものに触れていく。それと常に感じるのは、京都はすでに紅葉は終わってしまったが、テレビを見るとどの局も同じようなことを放送している。残念ながらそれは全部東京発である。なぜ東京のネット番組の制作者がわざわざ京都に来て紅葉の中継をやらなければならないのか、ものすごく頭にきている。これは以前問題になったテレビドラマのロケ地の設定で東京キー局から注文がついたことと同じ問題である。大阪弁、京都弁、神戸弁を使ってドラマを作り、全国に放送していく（これが関西の放送局の使命）。仕切りを、日米安保といっしょ、ここからここまでは関西にやらせよ、それをぜひやってほしいと願っている。これが言いたいことの一つ。

私はあまり国内のことに興味がない。世界でどんな人間が何をしているかという視点で紹介していくと、次の番組がお勧めである。「関口知宏の中国鉄道大紀行～最長片道ルート 36000 キロをゆく」（NHKBS、10分番組）、3年続いている番組。チベットから始まり、中国の鉄道のあるところを全部順番に10分ずつ紹介していく。お陰さまで、僕はこの番組を通して中国各地の人々の話を聞いたり、風景を見たりして中国のイメージができあがった。リポーターの関口知宏が必ずそれぞれの地で現地の人々と会話をする、コミュニケーションをする、とりとめもない話だが、何かここに感じるものがある。こんな面白い番組はないと思う。

もう一つ、これは5回目(単発)だが、「世界のはての日本人～ここが私の理想郷～」（TBS）。最近見た番組は日本人の夫婦がアルゼンチンの最南端の氷河の近くのところに小さなゲストハウスを造り、お客さんを受け入れている。将来そこにリゾートホテルを造るという夢を持っている。ただそれだけの話である。そこへ行くのに40時間かかったのだが、どんなに幸せな生活をしているか。同じ「世界のはての日本人」シリーズでもう一人はインドでインド人と結婚した日本人が主人公。ホテルを経営している。この夫婦の生き方がまたすばらしい。この番組を見ると、こんなに楽しい生活をしている気持ちがどんと前に出てくる。さらに日曜日の朝の対談番組「サワコの朝」（阿川佐和子が聞き手、MBS系30分）。この間には高畑淳子がゲストだったが、阿川さんの話術のうまさが光っている。これはテレビだが、見る番組でなく、聴く番組である。テレビの真髄だと思っている。話だけでも人々の心をつかむことができることを証明した番組である。そしてNH

Kスペシャルがいい。ETV 特集「チェルノブイリ原発事故 汚染地帯からの報告～ベラルーシの苦悩～」は2回にわたり放送。すばらしかった。

この会ではラジオというメディアを扱っていいものか。

出席者 メディアウオッチングだから、ラジオについても取り上げないとおかしい。ラジオも当然扱うことになる。新聞メディアについても以前 話し合ったことがある。

<「たね蒔きジャーナル」は影響力の大きいラジオ番組>

出席者 私が推薦したいラジオ番組は（原発問題に積極的に取り組んでいた）「たね蒔きジャーナル」（MBS ラジオ、月～金、夜9～10時の報道番組）。「たね蒔きジャーナル」事件というのは皆さんご存知だと思うのだが、突然の放送打ち切りに関連して『放送レポート』『GALAC』など放送関係雑誌などで特集を組んで、なぜ放送が打ち切られたのかを報じている。

出席者 「たね蒔きジャーナル」については社内の上層部の人にも言ったが、みんな放送を止めるべきではなかったと言っていた。会社があかんようになったと思うのはそういうことをやってはいけない（支持されている番組を打ち切る）と思っているにも関わらず隣のセクションがやっていると、よう意見を言えなくなったこと。会社にとってプラスかマイナスかとか、聴取者にとってプラスかマイナスかとか考えて判断しないといけない。

出席者 僕は怒り心頭に発している。ラジオメディアに影響力がなくなったなどといわれると頭にカチンとくる。こういったことを議題にしてジャーナリズムとは何かといったことを、この会で話し合いたいと思っている。テレビはジャーナリズムでないというのなら、こんな話をしても無駄になるのだが。テレビはジャーナリスティックであるべきだし、その方向にもっていかなければならないと思っている。この「たね蒔きジャーナル」（2009年10月からスタート）は、東日本大震災直後の2012年3月13日から原発問題を積極的に取り上げ、脱原発派の間で話題になっていた。それが今年2012年9月28日の放送を最後に打ち切られた。この番組は原子力推進反対の立場をとる京都大学原子炉研究所の小出裕章助教をゲストに呼んで、市民の目線で分かりやすく原発問題を解説していた。2012年3月には原発報道が評価され、坂田記念ジャーナリズム賞特別賞を受賞している。『放送レポート』によると、放送打ち切りに抗議して番組復活を求める署名運動を行ったところ、5000人以上の署名が集まった。また身銭を切り番組のスポンサーになろうと申し出た人が数百人いて、1000万円集まったという。この番組がなぜ影響力をもっているかというのを知ったのは、私の姪からの電話

がきっかけだった。それは「たね蒔きジャーナル」の放送打ち切りが表面化する前のこと、姪がラジオやテレビの放送についていろいろ話を聞かせてほしいと言ってきた。その彼女の口から「たね蒔きジャーナル」という番組が放送されているということを初めて知ることになる。この番組は若い女性の間、特に子供を持つ女性の間で支持され、今や宝石のような番組だという。彼女は「たね蒔きジャーナル」を通して放射能の知識を得て、原子力の怖さを知ったと語る。そして小出先生の話をもとに世界各国の放射能などのデータを集めた分厚い資料集を作り持っていた。子供を持つ若い女性グループの間では、原子力に関心を持つ人が全国の市町村レベルでネットワークを作っているという。だからこの番組は（大阪で制作しているローカルの番組ではなく）全国各地にリスナーを持つ番組になっている。

司会 この問題はたいへん重要なテーマだが、機会を改めて取り上げる必要があると思う。

出席者 私は最近の選挙報道はなっていないと思っている。各党首の発言を1分ずつとか5分とか10分ずつにして細切れにしている。同じことを各局でやっている。視聴者にとってはプラスにもマイナスにもならない。その点、「朝までテレビ」（テレビ朝日系）は役立つ。メッセージを伝えるという風にもっていかないと、テレビは単なる娯楽メディアに衰退していくだろう。

司会 放送とはジャーナリスティックであるべきかどうかというのは、この会の永遠のテーマのような感じがする。

<メディア自身をもっと元気に>

出席者 私はニュースなどで事実を知ることだけに関心がある。あまりテレビを見ないしラジオも聞かなくなった。ちょっとここで言う話と違うかもしれないが、メディア自身もうちょっと元気にならないといけない。私は大阪テレビ（大阪で初めて開局した民放テレビ）に昭和31年に入って、最初にした仕事は街頭テレビを設置することであった。そのとき“燃えて燃えて”、とにかく視聴者を増やすんだということで、近畿一円に60台の街頭テレビを置いた。街頭に置くテレビが届いたのはその年（31年）の5月1日、それから開局の12月1日までに60台のテレビを設置するというので寝食を忘れて走り回った。そういうときのエネルギーを今の人に言っても無理だと思うが、その何分の一かでも持って欲しいという気がする。それから一番何が頭にきているかといえば、ばかばかしい番組が多いこと。局の財政状態もあると思うのだが、結果的にそういうことにしている今

の経営陣が何をしているのかと言いたいのだ。独禁法などで禁じられているはずだが、例えば 500 万円の制作費を 450 万円でやれとっておいて、450 万円支払うときに今度はまた 50 万円安くせよという、これは法律で禁止されているはずである。それを全局という用語があるかもしれないが、かなりやっている局があると思う。そういう意味では媒体として全部が反省しないといけないのではないか。私たちのときにはそんなことを言ってきたら上司と大喧嘩になった。ところが今の人には正直言って何も言わない人が増えている。誰も文句を言う人がいなくなっている。隣の人とでもパソコンで話をする時代になっている。一杯飲みに行こうかと言っても絶対来ない。ぺこぺこするよりも早く家に帰ったほうが良いと残業もあまりしない。放送局のあり方が根本的に変わってきているなど思う。それになんとか喝を入れることができないかと思ってこの会に出てきている。

司会 皆さんの話を伺っていると、今年の番組もそうだが、現場に対する提言というのはものすごく大きいと思う。今日の二つのテーマは皆さんの話でクリアされているように思う。ところで今年印象に残った番組は。

出席者 印象に残った作品はあまりない。できるだけニュースは見るようにしている。もともと報道中心だったから。新聞報道の場合、大きな活字の見出しを使ってメッセージを伝えると話したが、それではテレビやラジオはどうすればよいかといえ、大きな声（説得力のある伝え方）で大きな見出しで訴える、そういう工夫がないから見ていても当たり前のことを当たり前にやって終わってしまって、印象に残らない。古舘キャスターも若いころは気に入らないことがあれば、悲憤慷慨していた。国谷キャスター（「クローズアップ現代」）もすばらしい（衛星ニュースの同時通訳からニュースキャスター）のだが、すんなり入ってしまって、折角いいニュースを聞いても残らない。福島原発があれだけ恐ろしいものだというのを放送していながら、心に残らない。しゃべっている人がゲストと一緒にあって思いっきり悲しみ、大泣きするような感情が入ってもいいのではないか。何も公正中立でなければならない報道番組じゃないわけだし、（社会番組の）キャスターとして任されている分、自分の主張をもうちょっと入れていただきたい。これは全部の番組の担当者、プロデューサー、ディレクターに対して言いたい。三井三池争議の取材のとき、電信柱に登ってマイクを下にぶらさげて、音をこっそり録音したりしたが、今の人たちはそういうことをしているのかなど思ったりしている。もうちょっとナマな素材が画面また音声で放送されないか、そういう希望がある。今伺っている中で見逃したり、聞き逃したりしている番組がこんなにあったのかと忸怩たる思いでいる。今日はいい勉強をさせていただいた。

司会 世話人から締めくくりにあふさわしいこういうお題を出ささせていただいたが、案に相違して番組名がなかなか出てこない、ただ結構皆さん、幅広く見ておられる。尚且つ放送現場への提言もいろいろあった。さて続いて世話人からご意見を。

出席者 忙しいのか、テレビを見る量が減り少なくなった。それでコマーシャルを見るのがつらくなってきた。自分の生活でもコマーシャルを見る必要がないような年代に入ってしまった。結局デジタルになって簡単に録画できるようになってきたので、テレビ番組はコマーシャルを抜いて見るという見方に変わってきた。ラジオはよく聞いている。朝起きてから食事、そして出かけるまで、夜は寝る前によく聞いている。遅まきながら、「映像 12 重信房子からの手紙～日本赤軍リーダー 40 年目の素顔～」(MBS)を見た。彼女が捕まった高槻のホテルは私が住んでいるところからときどき食事に行ったりしていたところで、そのときから関心のあった人物だった。いい番組を作っているなど感心した。それから NHK の「新日本風土記」(BS プレミアム、松たか子がナレーター)。日本の民族、日本の風土の原点を呼び覚まされるような良い番組だった。さらに NHK になるが「サイエンス ZERO」(Eテレ)。ノーベル賞をとった山中京大教授の IPS 細胞でも分かりやすくきちんと説明してくれる。昨日はヒッグス粒子を取り上げていたが、情報を丁寧に解説してくれるので完全には分からないがなんとなく理解できる。NHK はそういう番組をよく制作している。

司会 ラジオはどんな番組を聞いているか。

出席者 「おはよう パーソナリティー 道上洋三です」(ABC ラジオ)と「朝からてんコモリ！」(MBS ラジオ、パーソナリティー 子守康範)。道上さんは年をとった(1943 年 3 月生まれ)。ラジオパーソナリティーというのは声の生きがよくないと、道上さんの声がえらく年寄り声になってきて響きがなくなってきた。朝は道上さんの番組を何年も聞いていた愛聴者だったが、最近ちょっと離れてきて MBS の「朝からてんコモリ！」に乗り換えつつある。

司会 (道上さんは) あそこまでしゃべれるというのはすごいことだと思う。

出席者 BS 放送についてひと言、BS は最近いいコマーシャルがたくさん入ってきて、地上波と変わらないくらい成長してきた。BS フジが制作している「BS プライムニュース」という報道番組がある。中身(制作姿勢など)には問題があるとしても、ゲストで出演している識者が本音で語るの注目している。BS で海外の番組を見ようとすれば、NHK しかない。日本くらい海外の番組がス

トレートに入っていない国はない。それは日本のメディアの大欠点である。だから中国の放送も韓国の放送もない。やっているのは NHKBS と東京キー局の BS 放送で、すき放題にやっている。これをなんとかしないと、ますます放送の地方分権化とは逆の方向に行く。

司会 BS の使い方というのか、地上波の棲み分けというのか、まだ確立していないが可能性があると思っている。オーケストラにいたときに、定期演奏会を年 4 回、収録してもらって無理やりスポンサーを付けてフジ系 BS で放送した。その当時は割と放送枠に隙間があって放送できた。まだこれからのメディアじゃないかという気がする。

出席者 中央の政治では地方分権化といって話題になっているが、メディアだけそれに乗り遅れている。

出席者 乗り遅れているのではなく逆行している。東京一極集中の方向に進んでいる。昔はもっと地方局からの（情報）発信というものが多かった。

出席者 僕は NHK の番組が主だが、放送メディアとして影響力のあった番組として「未解決事件」をあげたい。これは民放が企画し放送すべき番組だった。「オウム真理教」の問題を扱った特番は 3 回に分けて、「グリコ森永事件」は 2 回に分けて特集した。特に「オウム真理教」のケースではメディアの責任ということを番組内で全く言及しなかった点など不満もあるが、問題の核心を突いた力作だった。放送のあと未解決事件が動き、解決へ。もう一つ ETV 特集「原田正純 水俣病への遺産」。水俣病患者を追い続けた医師原田正純さん（熊本大学教授）の生涯を描いている。50 年水俣病患者と向き合い、医師のあるべき姿を問い続けた。2012 年亡くなった。生前の映像と水俣の初期の映像を重ね合わせ構成している。

出席者 同じ ETV 特集で「花を奉る 石牟礼道子の世界」も秀作だった。

出席者 テレビメディアの影響力を考えたとき、民放でも取り上げなければならない番組ではないか。

出席者 熊本放送はかなり水俣病を取り上げていた。ただ熊本でのローカル放送であった。

出席者 「青少年に見てもらいたい番組」の一覧（資料）を見せてもらったが、近代史に属するような番組はどれも無い。今の青少年というのは教育の場で近代史はもの

すごく省略されていると聞いている。そういう種類の番組を考えてもいいのではないか。皆さんの考えを聞きたい。

出席者 「青少年に見てもらいたい番組」というのは各局が独自に選定した番組で総務省に申し訳のために出す一覧である。

出席者 テレビ番組の中にも近代史をテーマにした番組はシリーズで放送されたこともあったが、最近ほとんどない。1960～70年代にかけて政治的なテーマ（戦争の原罪を問うものなども）を扱ったドキュメンタリー番組が比較的に見やすい時間帯で放送されていたことがあった。

司会 「必ず見る番組」「好きな番組」のアンケートで気付いたのだが、「こんな番組を見たい」という設問があってもよかった。私なんかはもっと音楽番組を見たいと思っている一人である。

<豊かさとは何か 「小さな村の物語～イタリア」が問いかける>

出席者 何年か継続して見ている番組がBS日テレの「小さな村の物語」（イタリア）。

（他の出席者からも“それはいい番組”と推す声）

これだけたくさん小さな村がイタリアにあって、これは戦略的なことでイタリアというのは山の頂上付近に固まって住まわなければ外敵から守れないという歴史があったようだ。イタリアの「小さな村の物語」をなぜ見ているのかといえば、住んでいる人それぞれが、それぞれの生き方を探しながら、満足しながら日常生活、つまり人生を送っている。そして人生を語るのである。こんな片田舎で、このおばあちゃんがこんな話をするんだというようなことを毎回感じさせるからである。右肩上がりの成長の時代が終わって、これだけ高齢化社会が進んでいる日本の中で、（私は）やっぱり金持ちじゃなくても豊かな生活を模索していく社会になっていかなければならない、つまりヨーロッパ型の社会になっていかなければならないだろうと思っている一人だが、この「小さな村の物語」を見ていると、まさに毎回そういう思いがしてくる。

イタリアは今経済的にたいへんかもしれない。しかしそこに住んでいる人たちはこんな風に心豊かに暮らしている。毎回食事のシーンが出てくる。ペンネなんかをゆでて、ちょっとミートソースをかけて昼食はそれで終り。ちょっとワインを飲みながら豊かな生活を満喫しているようだ。（イタリアといえば）全体的にフィアットであったり、工業都市であったりするかもしれないが、国内で住んでいる人たちというのはこういう生活をしているということのうらやましさを感ずる。

出席者 破産しそうなイタリア国家とそんな幸せな村。ところが日本では村を探しに行ったら、どこへ行っても同じことを言うね、みんな年寄りばかりになったとか。これは大きな問題だ。

出席者 イタリアは自治体の独立性が非常にはっきりしていて特色がある。国から補助金を出したら、縛られるというので断る自治体が非常に多い。

出席者 平成の大連合（合併）なんかする必要がないんだ。イタリアならば。日本もそうだったはずなのだが。そういう点を突き詰めていくと、これまた大ドキュメンタリーになる。日本人が作るドキュメンタリーはこの小さな村だけを30分で作ってしまう。そうじゃなくて本当に欲しいのは日本の政治構造と村との関係というのをやらなければならない。そこがちょっと足りない。

出席者 （「小さな村の物語」には）イデオロギーとか、思想とか、考え方とか全部凝縮されている。僕も時々見ている。いい番組である。

出席者 鳥の目とか、虫の目とかという言葉があるが、視点の置き方の問題であろう。

出席者 「小さな村の物語」のほかに、「BS 日本・こころのうた」（BS 日テレ）を推したい。この番組はただスタジオでクラシックを勉強している男性グループと女性グループが日本のうたを歌う。軍歌があったり、ラジオ歌謡のようなものがあったり、童謡であったり、この番組を視聴している人がものすごく多いという。年1回大阪でもコンサートがあるが、応募しても当たらない。何のてらいもなく歌うだけ、カメラワークも歌中心でシンプルなものである。

そして三つ目はNHKで2009年から単発で放送している番組「タイムスクープハンター」。例えば江戸時代にタイムスリップして、その当時の事件、物語を再現。現代の探偵記者が現場に行ってスクープするというそんな番組である。NHKには「番組たまごトリアル」という実験的な番組枠があって、何回か放送してその中から反響の大きかった番組をレギュラーに格上げしていく。「タイムスクープハンター」もたまごから育ってきた番組だという。

出席者 NHKBSで放送している「COOL JAPAN～発掘かっこいいニッポン」が面白い。外国人が日本の文化を発掘するという番組。メインの司会は鴻上尚史。いろいろな文化だったり、製造技術だったり、日本の中でクール、かっこいいと感じているものを外国人が取材して体で感じて報告する。番組の構成はシンプルだが、ユニークな会話が飛び交い楽しい番組である。

司会 なかなかまとめにくい会になったが、なんとかまとめていただいて、ホームページに掲載できればいいなと思う。

最後に先日の高橋信三記念基金シンポジウムからパネリストの発言を紹介したい。MBSの「ちちんぷいぷい」のコメンテーター石田英司氏が冒頭語った言葉が印象的だった。「大阪駅など路上でアマチュアシンガーが歌っているが、彼ら、彼女たちの歌というのは自分の周辺5~6kmといったところ（世界）を歌っている。若い人たちのメロディーはどこかで聞いたことのあるメロディーだが、彼らは発信できている。メディアを持っているんじゃないか。そういう意味ではテレビマンと似ているが、テレビマンというのは半径5km（の発信）ではダメなんだ」

同じくパネリストの一人、ABC「探偵 ナイトスクープ」の初代プロデューサー松本 修氏は「大阪人は女性ならピンクレディ（の振り）を誰でも踊れる。テレビが要求すれば何でもやるというサービス精神が大阪にある。とは言うものの、そういう風にしてしまったのはテレビではないか」と語った（テレビのすごさ、怖さを改めて考えさせる言葉である）。

▼今日予定していたテーマのうち、「テレビ60年」と「総選挙とメディア」については次回引き続き検討課題として考える。

会の冒頭、本題に入る前に話し合った

◎「アンケート調査」の集計総括

（民放OB・OGの「必ず見る番組」「好きな番組」、2012年10月実施）

◎「メディアウォッチング」のホームページ掲載状況については要点のみ記す。

<「アンケート調査」の集計総括>

すでにホームページで公表しているが、今回のアンケートの調査対象は秋の懇親会に出席した関西民放クラブ会員142名。回答をいただいたのはそのうち57名。

「必ず見る番組」「好きな番組」を一つずつ記入してくださいとの問いかけには、回答者のほぼ8割がニュース、報道系ワイド番組、情報系ワイド番組、そして紀行番組を中心としていわゆる教養番組をあげ、バラエティーや娯楽番組を推した人はごくわずかであった。「必ず見る番組」でよく見られていたのはNHKの「ニュースウォッチ9」、そしてABC系列の「報道ステーション」。NHKの「大河ドラマ」も高齢者には見逃せない番組にあがっている。尚「好きな番組」としてNHKラジオの「歴史再発見」、ETV「高校講座」をあげた人がいた。

いわゆる団塊の世代（63~65歳）から70歳、80歳前後の世代が、いまどのような番組を見ているのか、アンケートのデータにその傾向が伺える。

<「メディアウオッチング」のホームページ掲載状況>

A4の用紙で20ページ近い記録(定例の会の報告)をアップしている(例えば『ロンドンオリンピック』の中継放送を見て)の場合など)。研究者にとっては貴重なデータを提供していることになると思うが、PR不足で一般の人からのアクセスがどの程度あるか分からない。

講師を迎えたときの記録も掲載許可を得られたものから閲覧できるようにしている。現在、朝日放送の山内久司元専務とイラストレーターの成瀬國晴氏を招いたときの記録がホームページで見ることができる。お二人ともテレビの有り様について鋭く、且つ的確にアドバイスしており、現役の放送人にはぜひ閲覧してほしい内容になっている。2011年の東日本大震災(3・11)の直後に開いた例会では、「震災報道を考える」と題して討論したが、出席者の発言はいずれも問題の核心を突いており、記録としての価値が高い。

(司会者から)

関西民放クラブの中に会員増強のための委員会がある。私はその委員会の責任者をしており、在阪民放の定年退職者や再雇用者で時間のある方に、同好会への参加を呼びかけている。先日、テレビ大阪、KBS、それから読売テレビを訪問し、本部長らに会って話をしていたら、テレビ大阪の総務部長は関西民放クラブのホームページを必ず見てチェックしていると話していた。

ちなみに、11月の理事会(関西民放クラブ)でホームページの担当者から閲覧状況の報告があったのでお伝えする。ホームページを開設してから半年になる。概数だが、ページ数にして2万500ページぐらい見られている。(関西民放クラブのホームページに)初めてアクセスしていただいた個人の方は2122人、複数回見ている人は600人強(71%に当たる)。毎日見ている人は160人。平均すると6分ぐらいホームページを閲覧していることになる。トップページが一番よく見られている。その次が同好会のページ。この中に「メディアウオッチング」のページも含まれている。

(関西民放クラブの)理事の一人が「この『メディアウオッチング』のページはある種、民放クラブの良心のようなものである」と発言、非常にありがたく、うれしい言葉だったと思っている。

このホームページを一般の方にも見ていただけるようになれば、関西民放クラブの幅広い活動が告知でき、「メディアウオッチング」の存在も多くの方に知ってもらえる機会が増す。

以上